

まず、言葉の教育を……

人間は、言葉を覚え、言葉を使えるようになって、初めて人間としての能力が身につくので

すから、言葉の教育ほど大切なものはないと言えます。その教育は、主として母親の担当です。

だから、人間としての能力は、その母親によって作られる、ということが出来ます。その母親の行う言葉の教育の上手下手が千差万別ですから、人間の能力も千差万別に分かれる、というわけです。

少しでもより評判の高い大学や高校に入学させることには熱心な親が多いのですが、それよりも重要な、幼児期の言葉の教育には、無関心な親が多いのは、結局、その重要なことを理解していないからです。

狼少女のカマラは、言葉を習得すべき大切な幼児期を狼に育てられたため、狼の吠え方しか習得しませんでした。人間の生活に復帰して九年間に覚えた言葉が、僅かに四十五語だったというのは前にも述べた通りです。

また、ポール・ショシャルの調査によれば、アフリカの原住民の子

供たちの知能指数の低いのは、その家庭や社会で語られる言葉の数が少ないためである、と推定されています。

それは、アフリカの子供たちでも、フランスで生まれるか、少なくとも幼児期をフランスで過ごした子供たちは、フランスの子供たちと同じ高さの知能に達していることで推定されたのです。

アメリカの人間工学研究所が、「人間の能力も社会的地位も、その人間が理解している言葉の豊かさに正比例している」と発表しましたように、人生に成功するために最も必要な基本的な能力は“言葉”です。

その言葉の力を偉大にするか否かは、母親の教育の仕方にかかっているのですから、母親たる者は、まず何よりも“言葉の教育法”を会得しなければなりません。